

大腿骨近位部骨折で手術を受けられた患者さんの骨粗鬆症治療継続率の調査

研究機関 能代厚生医療センター 骨折リエゾンサービス
研究責任者 佐藤 毅 (整形外科 副院長)
研究分担者 佐々木 寛 (整形外科医師), 永井 里実 (薬剤師), 石川 志保 (管理栄養士), 藤田 陽子 (看護師), 飛澤 一真 (理学療法士), 佐々木 凜生 (退院支援・連携室), 櫻井 直人 (放射線技師), 米谷 明沙美 (医事課事務)

I はじめに

大腿骨近位部骨折を受傷した患者さんは、他部位の骨折を発生する可能性が非常に高いと言われています。それらの骨折は二次性骨折と呼ばれていますが、当院ではそれらを予防する目的で、他職種から構成される『骨折リエゾンサービス』というチームを2023年4月に立ち上げて活動しています。二次性骨折を予防できていない原因の一つとして、骨折を起こした患者さんに骨粗鬆症治療が十分行われていないということが指摘されています。2015年に当院整形外科の斎藤医師が「当院での大腿骨近位部骨折後の骨粗鬆症治療は、退院時には67.7%、回復期病院退院時には60%、維持期には62.5%の患者に行われていて、治療開始率および継続率は決して高くはなかった。」と報告しました。一方で、2022年1月から2023年9月までに、当院で手術治療を受けた大腿骨近位部骨折患者さんの当院退院時の骨粗鬆症治療率は94%とかなり高率になっていますが、退院後の治療継続については、当院外来で経過観察を行っている患者さん以外は十分に把握できていないのが現状です。

そこで、大腿骨近位部骨折に対して手術を受けた患者さんの骨粗鬆症治療継続の現状を把握し、問題点を浮き彫りにして、治療継続率向上に役立てることが必要であると判断しました。

II 調査・研究の目的

当院で大腿骨近位部骨折に対して手術治療を受けた患者さんの骨粗鬆症治療継続の現状を把握し、問題点を浮き彫りにして、今後の治療継続率向上に役立てることが目的です。

III 研究の方法

1) 研究対象者

2022年1月以降に当院で手術を受けた大腿骨近位部骨折患者さんのうち、当院整形外科へ通院されていない患者さんを対象とします。

2) 研究期間

2022年1月以降、期限を設けず定期的に調査します。

3) 研究方法

上記対象者の退院先を電子カルテ内で調べ、退院先の病院、診療所や施設へ骨粗鬆症治療調査のアンケートを送付して記入してもらい、当院へ返送してもらいます。

4) 情報の取り扱い

返送いただいたデータは、電子カルテ内に記載して保存します。保存された情報は、学会発表などに使用される場合がありますが、個人が特定されるような情報を含む形では使用しません。

5) 問い合わせ・連絡先

この研究についてご質問等がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。また、あなたの情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には、研究対象とはしませんので、下記にお申し出ください。研究をお断りになられても、患者さんには不利益が生じることはありません。

問い合わせ先：

能代厚生医療センター 骨折リエゾンサービス

担当者 佐藤 毅 (整形外科)

住所 〒 016-0014 秋田県能代市落合字上前田地内

電話番号 0185-52-3111, FAX 0185-55-0123